

株式会社LIMNO 様

出荷検査報告アプリと基幹システム連携で、現場と管理側双方の工数を年間575時間削減

紙4,700枚を削減し、月次集計も自動化。基幹上で現場データを一元管理し、品質改善・分析を加速

株式会社LIMNOでは、これまでPlatioで現場業務を効率化するアプリを複数作成・運用してきた。その延長として、紙で運用していた出荷検査報告もアプリ化し、現場入力と紙運用の負担削減を検討。あわせて、紙からExcelへの転記による月次集計の手作業や、進捗を都度確認する運用も一体で見直したいと考えた。そこで、アプリ作成に加えてデータ加工やシステム連携までノーコードで実現できるPlatio Connectへアップグレードし、出荷検査報告アプリ作成と基幹システム連携までを5日で実現。現場入力から進捗確認、集計・管理までの大半の工数を自動化し、脱Excelを実現。製造現場のDXを一步先へ進めている。

課題・目的

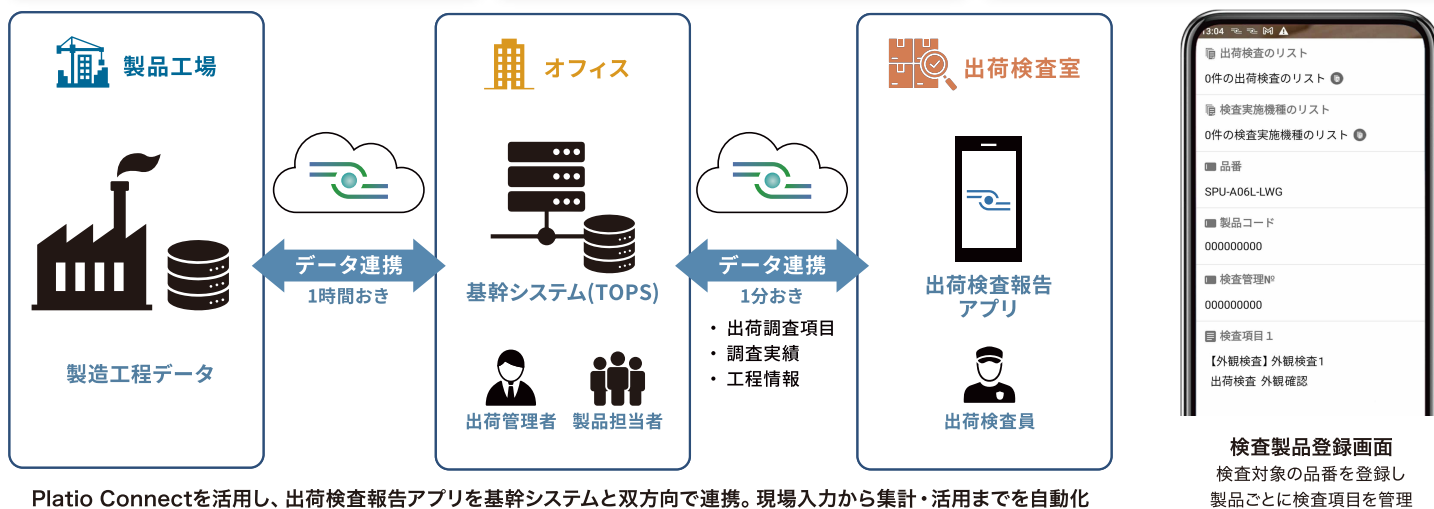
- 出荷検査報告書は紙運用で、記入・押印・保管・検索・Excel転記の負担が大きい
- 進捗確認は検査員への都度確認が必要で、共有に約10分のタイムラグがある
- 月次集計や実績分析はExcelで手作業のため、データ活用まで手が回らない
- 現場入力から進捗確認、集計までのフローを見直し、手作業とタイムラグを減らしたい

選定ポイント

- アプリ作成からデータ連携までをノーコードで一気通貫に実現できる
- 基幹システム上で現場データを一元管理でき、現場とバックオフィス双方の効率化が見込める
- Platioの運用実績があり、現場は従来と同じ操作感で抵抗なく使え、定着しやすい
- 連携頻度を業務に合わせて設定でき、既存運用に無理なく、短期間で組み込める

効果

- 出荷検査報告アプリを基幹システムと連携し、年間575時間の工数と紙4,700枚を削減
- 検査結果が基幹システムへ自動反映され、進捗確認や問い合わせ対応工数を削減
- 自動入力やQR読取で現場の報告の手間と誤入力を抑え、転記工数を削減
- 検査データは自動集計され、品質改善やデータ分析が加速
- 押印を紙からPDFの電子承認へ移行し、承認・回付の手間を削減



Platio Connectを活用し、出荷検査報告アプリを基幹システムと双方向で連携。現場入力から集計・活用までを自動化

ユーザーのひと言



基幹システム連携は大掛かりな開発が必要だと思っていましたが、アプリ作成から基幹システムとの連携までを約5日という短期間で構築でき、驚きました。

これまでもPlatioで現場アプリを運用していたので、今回の出荷検査も「現場が迷わず使える形にする」ことを重視しました。操作感が変わらないため、現場は新しいツールを覚える負担がほとんどなく、スムーズに使い始められました。

特に良かったのは、基幹で管理している製品情報をアプリ側に取り込めた点です。検査対象の情報があらかじめ揃っているため、現場は対象を確認して結果を入力していくだけで済みます。入力後は情報が自動的に反映されるため、進捗確認や集計のための確認作業が大幅に減り、現場だけでなく管理側の作業も楽になりました。見た目はいつものPlatioのまま、裏側の仕組みが一段進化した実感があります。

株式会社LIMNO IT推進部 主任 井上 香苗 氏
IT推進部 上田 正樹 氏

User Profile



所在地：鳥取県鳥取市立川町7丁目101番地

会社概要：タブレット・表示器やIoTモジュールをはじめとした電気機器の企画・開発、製造、販売、修理・保守サービス、コンサルティングソフトウェア、サービス等の企画・開発、制作、販売、修理・保守サービス

U R L : <https://www.limno.co.jp>